

★シスプラチンでの治療を受けられる患者さんへ★

シスプラチンによる腎機能障害

シスプラチンの副作用の一つに腎機能障害があります。シスプラチンは腎臓で尿と一緒に排泄されますが、シスプラチンを投与した後、尿からの排泄が遅れると腎機能障害が起こることがあります。腎臓には体内の老廃物の排泄や水分バランスを調整する重要な働きがあります。腎機能障害は一度起こると重症になることがあり、治療を継続できなくなる恐れがありますので、投与時に腎機能障害の予防・軽減のための対策をとります。

腎機能障害の予防・軽減のための対策

シスプラチン投与中、投与後は水分を多くとり、尿量を増やすことによって腎機能障害の予防・軽減をはかります。

- シスプラチン投与前後に電解質輸液を点滴します。投与前に利尿剤を使って尿量を確保します。
- 患者さんご自身でも当日はシスプラチンの投与が終了するまでに 1L 程度の水分をとってください。また 2 日目、3 日目も通常の水分に加えて、1L 以上の水分をとるように心がけてください。

外来治療当日の持ち物について

- 水分：お茶・水・スポーツドリンクのうちのいずれか、1L ご用意ください。
(上記以外にも飲みたい水分があれば追加で持参して下さい。)
- 下着の替え(必要な方のみ)

外来治療当日の注意点について

点滴中に食事をして頂いても構いませんが、水分をとることが優先になりますので食べ過ぎには注意して下さい。

採血結果を待たれている間に食事をとられた場合は、体重測定を再度行いますので、化学療法センターへ来られた際に申し出て下さい。

帰宅後に下記の症状があった時は病院に連絡または受診してください。

- 嘔吐や食欲不振により食事や水分がとれなくなった。
- 1 日 6 回以上、または 2 日間以上水っぽい下痢症状が続く。
- 尿が出にくい。

連絡先

- ・刈谷豊田総合病院 化学療法センター(8:30～16:45) TEL 0566-25-8009
- ・刈谷豊田総合病院 救急外来 (夜間、休日) TEL 0566-25-8300